

# 北 鯨 会

## ニュースレター

No. 14



2018年11月  
(名古屋工業大学同窓会北海道支部)

## 1. 同窓生情報

氏名（敬称略）（卒業年・学科記号、現在の居住地）で、卒業年順に記載されています。

### 佐藤 昌治（M40、苫小牧市）

トヨタ自動車北海道を退職後、苫小牧にお住まいで、退職後の生活を楽しんでおられます。ハワイのコンドミニアムで年に7週間ほど過ごされておられます。趣味で、乗馬、居合、茶道を楽しんでおられます（ごきそ 2018.3-4号より転載）。

### 宮入 紀行（F40、岩見沢市）

卒業後9年間マツダに勤務された後、家業を継ぐため、北海道岩見沢市に戻られました。現在は退職されて週に1回卓球を楽しまれておられます（ごきそ 2018.3-4号より転載）。

### 高田忠彦（Y41、江別市）

徳島県のご出身で、卒業後就職で北海道に来られてから50年が経ちました。現在は、会社を立ち上げ、生涯現役でがんばっておられます。最近、馬の病気のけいくん（皮膚病）の治療薬を開発されました（ごきそ 2018.3-4号より転載）。

### 三田村好矩（F41、札幌市）

#### 「第4回ホームカミングデーに参加して」

第4回ホームカミングデーが秋のうららかな日となった平成30年10月27日（土）、大学のキャンパスを会場に開催された（写真1）。午前中に学内研究室見学ツアー、午後から歓迎式典（会場：NITech Hall）および懇親会（会場：大学会館食堂）があった。筆者は当日札幌から移動したため、午後からの行事のみに参加した。



写真1 大学正門の案内



写真2 歓迎式典での学歌合唱

歓迎式典で鶴飼裕之学長から創立113年を迎えた本学の教育・研究の目標について説明があった。すなわち本学は、「実践的工学エリートの育成」を目指す。なぜならば、名古屋工業大学と中京地域の産業界でつくる産業技術・産業人材の揺籃が我が国の産業を支えるとの自負があるからである。

北海道内の国立大学である小樽商科大、帯広畜産大、北見工業大の3大学は2022年の法人統合を目指す協議が始まっている。東海地区でも名古屋大学と岐阜大学の運営統合の協議が検討し始められているが、本学はこの協議には参加せず、独自の道を進むとの力強い発言があった。

また内匠 逸副学長より大学の近況について報告があった。改めて本学の躍進を嬉しく思った。主なものは次の通りである。

国際学生寮 NITech Cosmo Village の新築：208 名入居予定

名古屋工業大学・ウーロンゴン大学（オーストラリア）国際連携情報学専攻の開設  
NITech AI 研究センターの設置

記念講演として、横山清子氏より、「人にやさしいもの・ことのデザイン～眠らせない自動車からカスタムメイド縄跳びまで～」の講演があった。横山氏は本学情報工学科昭和 57 年の卒業生で、現在名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授です。

NHK の「凄ワザ」で紹介された 8 重跳びを可能にした縄跳びのグリップを製作された。

居眠りは交通事故につながる危険がある。居眠りをしないよう覚醒度を維持するためには、脳内の酸素濃度を増加させる必要がある。医学の研究により心拍と呼吸が同期すると酸素が効率よく血液に取り込まれることが知られている。すなわち、吸気と同期して心臓が収縮すると酸素が効率よく取り込まれることになる。そこで、心電図に同期して運転手の椅子の背もたれ部分に機械的振動を与え、心拍同期刺激による覚醒度を向上させる技術を開発された。

また、現在芸術工学部に所属しておられることから、芸術工学部を多くの方に知っていただくためにということで、コンビニ店と共同で開発されたお弁当のパッケージおよびその広告媒体のデザインについても紹介された。

歓迎式典の最後には合唱団とともに全員で学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌った（写真 2）。

歓迎式典後は会場を大学会館食堂に移し、懇親会が行われた。懇親会のなかで、活躍している学生のクラブ活動が紹介された。ボート部女子足立知里さんが第 45 回全日本大学選手権大会女子シングルスカルで 8 位入賞、杵川日向雅さんが平成 30 年度全日本珠算選手権大会（フラッシュ暗算競技）で優勝（ギネス記録申請中）、ソーラーカー部ソーラーカーレース鈴鹿 2018 オリンピアクラスで優勝、将棋部の竹川 和さんが第 21 回学生将棋選手権個人の部で優勝（過去に藤井聡太七段と対戦経験あり）。

懇親会で**秋山秀雄さん（Es43）**と久しぶりにお会いすることができた。秋山さんは 2 年前に札幌より東京に引越されました。東京でも札幌におられたときと同じで、ボランティア活動に活躍しておられた。お住まいの板橋区の施設で、おもちゃの修理を手伝っておられる。また、区内の小学校の図書館で本の製本の修理もしておられる。北海道支部の皆様によろしくお伝えくださいとのことでした。

母校で充実した一日を過ごすことができた。

## 山平 英夫（C43、札幌市）

北海道庁に 33 年、その後民間企業に 10 年間勤務され退職されました。今年は東京で開催された高校の同窓会に出席され、東京におられるお孫さんに会ってこられました（ごきそ 2018. 3-4 号より転載）。

## **浅井 信和 (D45、更別村)**

### **「50年前のユースホステルの旅」**

北海道に移住してまもなく13年になろうとしています。

この1年は、2月に古希を迎え、5月は北海道支部の評議員として久しぶりに名古屋の母校へ行きその変貌ぶりに圧倒されました。

さて、今年は北海道と命名されて150年ですが、今を遡る50年前は「開道100年」でありまして、それを記念して道内のユースホステルを巡る12日間のバスの旅が企画されました。当時大学3年生だった私も参加し北海道の雄大な自然に触れ全国から集まったホステラーと交流し大いに青春を満喫したものでした。

あの日の感動が退職後に北海道へ移住するという思い切った選択をさせたと思っています。

## **及川 善史 (M47、札幌市)**

現在建設機械レンタルの企業(西尾レントール)に勤務しておられます。オランダ、ベルギー、ルクセンブルグのベネルクス三国に旅行されました(ごきそ 2018.3-4号より転載)。

## **赤澤 稔彦 (Y53、苫小牧市)**

24年前に北海道に来られました。ソフトテニスを楽しんでおられ、2018年全豪オープンテニスを見に行かれるとのこと(ごきそ 2018.3-4号より転載)。

## **佐川 正人 (C53、札幌市)**

徳島県出身で清水建設に勤務され。退職後札幌お住まいになり、ISOやmanagementの審査に関する仕事しておられます。大学時代はワングル部に所属されておられ、現在も登山を楽しんでおられます。今年は25回山に行かれました。北海道の屋根の十勝岳からトムラウシ山への縦走もされました(ごきそ 2018.3-4号より転載)。

## **浅野 一郎 (C54、札幌市)**

### **「近況」**

2013年8月のお盆過ぎに札幌に赴任して以来、早いもので5年が経ち6年目を迎えました。札幌の冬の寒さにも慣れ、夏の涼しさにも慣れて、岐阜に帰ったり東京に出張の時にはあまりの暑さに早く札幌に戻りたいと悲鳴をあげます。

東京には10人ほどの同級生もおり出張の折には旧交を温めています

札幌での赴任期間もあと2年ほどかと予想していますので、まだまだ北海道の魅力を十分味わっていないので、もう少し足取り軽く各地に出かけたいと思っていますので、ここには行きなさいという所教えてください。

宜しく申し上げます。

## **伊東 博之 (ZW93、札幌市) :**

今回初めて総会に出席されました。1年半前に北海道に来られました。鉄鋼材料などを販売する企業(阪和興業)の北海道支店長をしておられます(ごきそ 2018.3-4号より転載)。

伊東 昇吾(ZKa5、札幌市、北海道電力勤務)

### 「地震による電力喪失と液化天然ガス発電」

#### (1) 地震に伴う全電力喪失について

今回の事象に関して私からご説明できるのは、ニュース等で報道されているレベルの内容程度ですが以下のとおりです(所属が発電部門であり、送電部門の詳細は把握できていないため)。

北海道では、現在泊原発が稼動していないことから、道内の火力発電所等にて交流 50Hz の周波数(東日本は 50Hz、西日本は 60Hz)の電力を発電しています。この周波数は電気の使用量(負荷)が増えると低くなり、使用量(負荷)が少なくなると高くなります。各発電所は、周波数を 50Hz に維持するよう、出力の調整を行っています(火力であれば燃料流量の調整、水力であれば水量)。今回の地震発生時に報道等もなされていましたが、道内最大規模の火力発電所である、苫東厚真発電所が、強い地震に伴い保護装置が動作し全台停止しました。

そのため、発電量が急激に減少し、電気の使用量に対する発電量が少なくなったことから、周波数が急激に低くなりました。その際、発電していた他の火力発電所等は燃料使用量を増やす等により、発電量を増やす方向に動作しましたが、出力上限に達してなおも周波数が戻らないことから、保護装置によりドミノ的に停止し、道内の全電力喪失に至ったものです。

#### (2) 液化天然ガス(LNG)発電について

石狩湾新港発電所は北海道としては最初のガス(LNG)を燃料とした火力発電所となります。石狩湾新港の東埠頭に北海道ガスと共同でガス基地を設置し(北海道電力:タンク2基、北海道ガス:タンク1基)地中配管により西埠頭の発電所にガスを供給します。ガス発電においては、一般的にガスタービンにてガスを燃焼し発電機を駆動するとともに、高温の排ガスの熱を排熱回収ボイラー設備にて熱交換することで発生する蒸気により、蒸気タービンを駆動することで熱効率を高くするコンバインド発電が主流であり、石狩湾新港発電所もこの方式の発電所となります。

石狩湾新港発電所1号機については、GE社製のガスタービンと東芝製の発電機および蒸気タービンを設置しており、出力は56.9MWで将来的には3号機まで建設する予定です。

発電所の営業運転開始は平成31年2月末で、10月4日から5日に掛けてガスタービンの初着火試験を行いました。

(そのための連日夜勤試運転対応が続いております)

来週には蒸気タービンも起動し、試験的に発電を行う予定であり、12月末頃までは業務が多忙となる見込みです。

## 2. 支部長会議報告(平成30年10月28日(日)10時—12時、名古屋工業会館)

7月に姫路で開催予定の会議が豪雨のため中止となり、10月に開催された。

議題は名古屋工業会館の耐震化についての方針検討である。

名古屋工業会館は、昭和51年竣工の旧耐震設計の建物であり、耐震強度が低く(構造耐震指標、IS値0.3程度(現在基準の半分程度))、震度6強~7で倒壊する危険性が高く、耐震補強か建て替えが必要となっている。



名古屋工業会館

一方工業会の財政状況と建て替え・免震対応に要する費用を検討すると、建て替え・免震対応に要する財源は無く、費用は、全面借入で検討せざるを得ない。

そこで、次の3つの案が考えられた。

1. 土地建物の売り払い（事務所機能のみ用意）  
一時的な収入増が図れるが、その効果は低い。
2. 耐震工事  
工事費の返済計画が描けない。
3. 全面建て替え
  - 3.1 商業ビルへの建て替え  
引き受け業者がない。
  - 3.2 賃貸、共同住宅への建て替え  
事業計画により、借入金返済以外に毎年一定の収益が見込まれる。

支部長会議の前に、各支部に対して上記案を参考に意見の集約が求められた。そこで、北海道支部では工業会会員を対象に郵送で上記案について意見を求めた。回答率 43%で意見が寄せられた。その結果大多数が 3.2 を支持された。また、借入金の返済計画が立たないときは 1 の案を支持する意見もあった。

支部長会議では、各支部より意見が出された。北海道支部からはアンケート結果に基づいて意見表明を行った。各支部からの意見は多岐にわたった。賃貸マンションを建設する。名古屋支部以外の複数の支部からは、工業会館の利用はほとんどないため、事務所のみを大学構内に移し、現在の建物・土地を売却する。借入金をしないため建物・土地を売却する。会員の負担が無いような方法を検討するなどである。

現在の建物で6人が働いているため、遅くない時期に結論をだす必要がある。このため、今回の会議での意見を踏まえて、建物委員会等で検討し、一定の方向性が決まれば、平成31年3月頃に再度支部長会議を開催し、そこで意見がまとまれば5月の代議員会議および総会にかけたいとの予定が出された。

### 3. 訃報

**長岡忠正氏 (C50)** は、平成30年2月15日ご逝去されました (67歳)。ご冥福をお祈りいたします。